

道有林におけるハマキガ類の発生状況 (1981年)

鈴木 重孝 東 浦 康 友

1981年のトドマツを加害するハマキガ類の発生状況は、6月中旬に旭川79林班(1935年植栽)、同78林班(1953年植栽)、滝川36林班(1929年植栽)、同41林班(1960年植栽)の4カ所で調べた。調査結果は表に示した。

コスジオビハマキは、旭川79林班、78林班とも依然として低密度を保っている。昨年個体数の多かった滝川36林班も、今年は大幅に数が減って50cmの枝1本当たり2.78匹となった。図-1に示したコスジオビハマキの個体数の年変動からみる限り、当分は大発生はないと考えられる。

今年のハマキガ類の発生状況の特徴は、卵越冬のハマキガ類の数がふえていることである。とくにトドマツメムシガは滝川41林班で17.05匹とかなり高い密度になっている。このほか、昨年に続いて空知郡浦臼町のトドマツ造林地(20年生)にトドマツアミメハマキが発生し、3年連続した加害のために一部に梢端の枯死がみられた。またスガ科のコメツガクチブサガ(*Ypsolopha tsugae*)が和寒町のトドマツ造林地で発生した。この種は今まで個体数が非常に少なく、あまり重要視してこなかった害虫だった。今回の大発生で過去の調査資料を検討し

1980年と1981年のハマキガ類の数(6月調査)

種 名	調査地	種	種	種	種	種	種	種	種	
		コスジオビハマキ	トウビオオハマキ	タテスジハマキ類	モミアトキハマキ類	トドマツアミメハマキ	トドマツメムシガ	トドマツチビハマキ	その他のハマキガ	ハマキガ類合計
旭川経営区 79林班	1980年	0.15	0.27	0.28	1.62	0.17	0.13	0.15	0	2.77
	1981年	0.10	0.88	0.33	2.77	0.42	1.93	0.23	0	6.66
旭川経営区 78林班	1980年	0.10	0.22	0.44	0.64	0.02	0.10	0.05	0	1.57
	1981年	0.03	0.34	0.19	1.14	0.06	0.41	0.18	0	2.35
滝川経営区 36林班	1980年	15.64	0.34	0.27	2.00	1.15	0.61	0.63	0	20.64
	1981年	2.78	0.10	0.10	1.13	0.98	3.20	0.53	0.08	8.90
滝川経営区 41林班	1980年	1.10	0.20	0.08	1.25	4.18	8.18	0.20	0	15.19
	1981年	0.30	0.23	0	0.30	3.45	17.05	0.18	0	21.51

注：数値は50cmの枝1本当たりの個体数

てみたところ，図 - 2 に示したように，旭川 79 林班，滝川 36 林班の両調査地で 3～4 年前から個体数が徐々にふえてきてることがわかった。

1995 年以降のハマキガ類の発生状況からみると，ある種のハマキガの数が固定調査地で増加傾向を示した年には，その種かその種と似た生活をしている種の発生があちこちから報告される例が多い、これらの害虫はある年に突然数がふえたのではなく，コスジオビハマキやコメツガクチブサガの例からわかるように 3～4 年の間に徐々に数が増加してピークに達するという発生型を示す。従って固定調査地で継続して個体数の変動を調べることによって，その変動パターンからどの種が大発生するかを予想できる可能性が示唆されている。

このほかカラマツでは，カラマツハラアカハバチの大発生が苫小牧地方で続いているが，今年は被害面積の急激な拡大はみられなかった。また美瑛町・東川町でミスジツマキリエダシャクが発生がみられた。この種は 1976～1977 年に網走管内で小規模に発生し，たった一度の食害でカラマツを枯死させた警戒すべき害虫である。

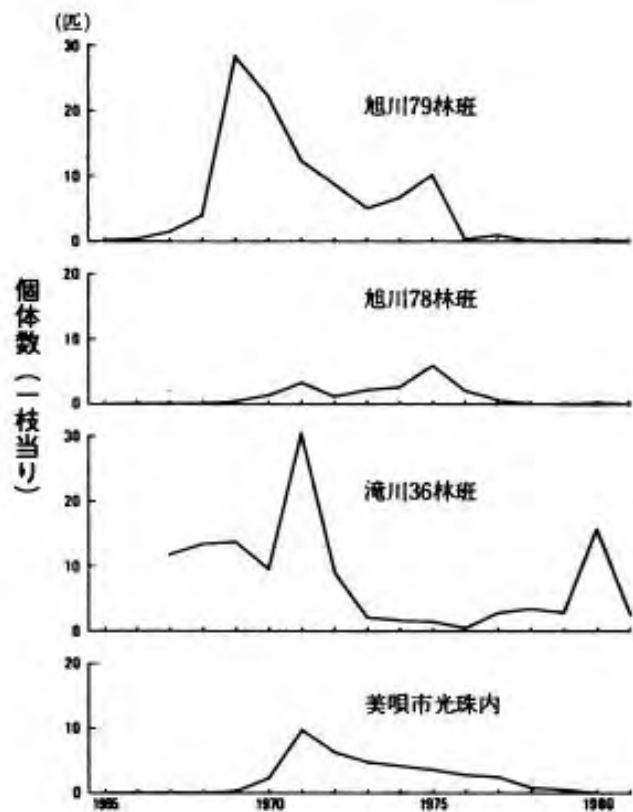


図-1 コスジオビハマキの個体数の年変動

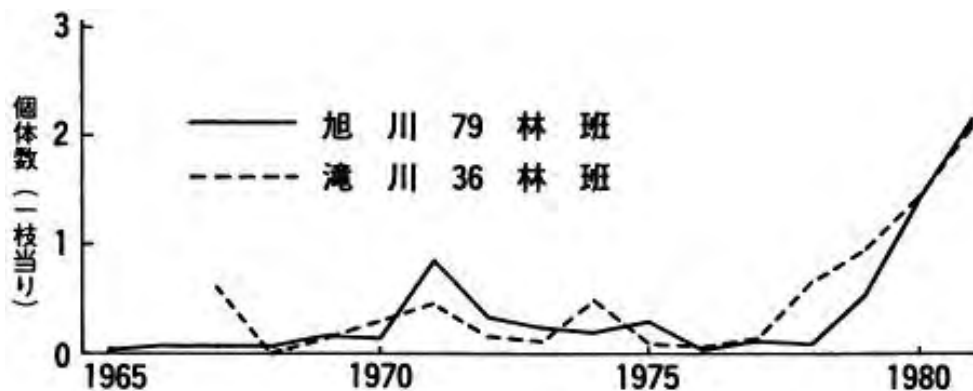


図-2 コメツガクチブサガの個体数の年変動

(昆虫野兎鼠科)